

議 事 録	
会議の名称	令和 6 年度 第 1 回 愛荘町総合教育会議
開催日時	令和 6 年 6 月 25 日（火）午後 2 時 00 分～午後 3 時 25 分
開催場所	ハーティーセンター秦荘 2 階 第 3 サークル室
出席者	【構成員】 7 名 町長 有村 国知、副町長 杉本 甚治郎、教育長 徳田 寿 教育長職務代理者 森 秀昭 教育委員 中村 由香里、黒川 泰守、木津 知里 【事務局】 8 名 教育次長 陌間 秀介 学校教育担当課長 奥村 晃 生涯学習課課長 水谷 徹也 図書館館長 三浦 寛二 教育振興課長補佐 久保川 美晴 【傍聴者】 0 名
議事日程	協議・報告事項 ・「未来を拓く愛荘 16 年教育の礎づくりに向けて」 愛知川幼稚園 國領 順子 園長
議事録作成者	教育振興課 久保川 美晴
教育次長	午後 2 時 00 分開会 皆さんこんにちは。 ただいまから令和 6 年度第 1 回目となります愛荘町教育総合会議を開催いたします。 はじめに有村町長からご挨拶をお願いします。
町長	皆さま、こんにちは。令和 6 年度第 1 回目となります愛荘町総合教育会議にご出席をいただきましてありがとうございます。 教育委員の皆さま方には日頃から本町の教育行政につきまして温かいご支援、そしてご協力をいただいておりますこと、厚く御礼を申し上げます。いつもありがとうございます。 また本日は愛知川幼稚園の國領先生にもご出席いただき、ありがとうございます。 この総合教育会議は、町当局と教育委員会とが十分な意思疎通を図り、愛荘町の教育の課題やあるべき姿を共有し、議論を深め、同じ方向性のもと連携して確かな一歩を進めていく場でございます。 本日、ご協議をいただくこととなっております、「未来を拓く愛荘 16 年教育の礎づくりに向けて」を愛知川幼稚園の國領園長先生からご説明をいただきます。

	幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を養う重要なものであり、その重要性を改めて認識し、より質の高い教育環境を整備することが求められています。 愛荘 16 年教育の推進を図る上で、本町においては、幼児期の教育を一層充実させることが必要であり、町をあげての、また行政等関係機関による総合的な取り組みが求められています。 そうしたことから、今回の会議において、幼児期の教育をテーマとして設定をいたしております。 次期教育大綱の策定に向けて共通認識を持ち、連携して取り組んでまいりたいと存じておりますので、どうぞ活発なご意見を賜りますようお願いを申し上げます。 開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。 本日もどうぞよろしくお願い申し上げます。
教育次長	それでは本年度第 1 回の会議でございますので、次第の 2 の出席者の自己紹介をお願いします。 ー順次、自己紹介ー
教育次長	それでは会議の方に移りたいと思いますが、今年度は次期愛荘町教育大綱の策定期間となります。委員の皆さまには日ごろ総合教育会議等で貴重な意見をいただき、教育委員会事務局では出された意見を受けとめ、様々な愛荘町教育行政に反映するよう努めておりますが、現状の課題や今後の方向性について、ますます具体的な議論が必要となります。活発なご意見をお願いします。 では会議の運営につきましては、愛荘町総合教育会議設置要綱に基づいて進めてまいりたいと思います。 早速ではございますが、設置要綱第 4 条によりまして、町長が議長になることから、会議の進行を有村町長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。
議長（有村町長）	それでは設置要綱に基づいて、議長を務めさせていただきたいと思っております。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。 次第の 3 議題の協議事項、「未来を拓く愛荘 16 年教育の礎づくりに向けて」にかかる意見交換です。それでは、意見交換に先立ちまして、愛知川幼稚園 園長より説明をいただきます。よろしくお願いします。
愛知川幼稚園長	「未来を拓く愛荘 16 年教育の礎づくりに向けて」・・・資料により説明

議長（有村町長）	ありがとうございました。
教育次長	続きまして、福祉分野での取り組みにつきまして、福祉政策監に代わりまして、教育次長より説明をいただきます。 本日、福祉政策監が欠席ということですが、取り組み内容について預かっておりますので、報告させていただきます。 乳幼児期は、子どもが生涯にわたる人間形成の基礎を培う極めて大切な時期であり、この時期に一人一人の人格や個性が尊重され、豊かな人間性が生まれることは、その後の子どもの成長にとって非常に重要とされています。 子どもが一日の生活時間の大半を過ごす保育所において、人権を大切にする心を育て、すべての児童の健やかな成長と発達を促し、仲間意識を育てる保育の実施、そのためにも、職員研修の充実を図り、保育士の資質の向上に努めています。 その中で、つくし保育園の現状をお伝えします。まず、子どもたちの様子です。毎日、多くの子どもたちが元気に登園してくれていますが、子どもによっては、睡眠不足なのか元気のない子、保護者と離れられない子も見受けられます。また、日常的に暴言やすぐに手の出る子ども、あるいは保育士にべったりくっついてくる子ども、一心に保育士の関心を自分に向けようとする子どももいます。 そこには、母子愛着関係からくる課題や、発達的な特性からくる課題、最近ではグレーゾーンと呼ばれる子どもたちも増えてきているような現状です。 また、その保護者ですが、些細なことで不安を感じ聞いてくる方や、一方でもう少し子どもに関心を向けて欲しいと感じる保護者さん等、様々な方がおられます。保護者も保護者が生きてこられた成育歴の影響を受けておられるのか、いろいろな課題を抱えながら子育てに奮闘されています。 そういった中で、つくし保育園では、月1回、子育て相談を実施し、随時、個別相談を行っています。担当しているのは、家庭支援員や担任などの保育士です。 保護者の困りごと、心配事を丁寧に聞いて、一緒に解決への糸口を見つけ出す作業を根気よく行っています。
議長（有村町長）	ありがとうございました。 それでは皆様からのご意見を頂戴したいと思います。 総合会議でございますが、様々な教育のテーマを扱っていただいて16年教育ということで教育長のもと教育の様々な政策を実行いただいております。國領園長先生また福祉政策監の報告にもございましたが、いか

黒川委員	に小学校の1年生の部分に繋いでいくのかというところが社会の一つのテーマとなっております。 色々着手していくところがあるかと思います。世帯によって様々なテーマをお持ちのところもございます。けれども、やはりこの幼児教育の時に、社会は信頼するに足るものであるということ、そして健やかな体を育ててもらうこと、社会性を身につけていただくということが、教育をお預かりする私たちにとって大変根幹となるものでございますのでその部分を引き続きこれからも力を入れていきたいと思っています。 では、色々な切り口、色々な視点がございます。委員の方々からのご意見等をいただきたいと思いますので、よろしくお願いをしたいと存じます。 本日は、貴重なお話を聞かせていただきありがとうございます。 本当に先生方はいろいろ研究してくれていて、子どもたちを向上していると考えていただいていることが、よくわかりました。子どもたちは幸せだと思っていました。 あとは、子どもたちの成長も大事だとは思いますが、去年もアワードで表彰された秦荘中学校2年生の保護者の方たちの夏祭り、あの時の活動ですが、そういう活動が大事なかなと思います。 教育って子どもに頑張れ頑張れみたいなイメージがありますし、点を取らせろとか、何か将来のために夢を見つけようとか努力しようとか。 でも、それだけではなくて、先生も大事ですが、子を持つ親が頑張って、でも頑張りがすぎず、でも子に頑張れというのであれば、自分も頑張らないといけないと思います。子どもに夢を与えるために、夏祭りみたいに色々な段取りをしてあげるとか、子どもが100%動けるような土台作りを大人がしてあげられるような社会になればいいなと思います。愛荘町は小さい町なので、もっと親たちが一致団結して仲良くなった方がもっと前向きにいくような気がします。
木津委員	園長先生ありがとうございました。たまたま昨日中学校に小学校のお仕事をお願いをしに行くことができました。中学校の敷地の中で、授業時間で敷地の中にはいるけれども、校舎の外でたむろしている子どもたちがいました。先生にもそのことでもお話を伺ったのですが、じっと座ってられない、悪意があるわけではなく、本人たちも座ってられない。授業については小学校からの積み重ねがわからないから、そこにずっと座っていることが苦痛で、苦痛で仕方がない。だから、そういう仲間が集まってしまうと聞きました。そういうのを聞くとやはりこの子どもの頃からの学習とかすごく大事だなと感じました。あと発達障がいとかには見えないグレ

中村委員	一なところでいくら勉強してもわからないとかという子たちをどう拾い上げていったらいいのかなって、私はその教育の何か資格があるわけでもないのどうしてあげたらいいのかがわかってはいないのですが、そういう子たちを何とか拾い上げていって、学力を平均に持っていくのは難しいかもしれないけれど、他の分野でもその子たちに合った何かを見つけてあげることができないかなと感じました。 あと小学校とか幼稚園とかボランティアで関わらせていただいていると、特に小学生だと自分たちで色々できるようになっていきます。今は愛知川東小学校子どもボランティアを育成するための保護者ボランティア、あくまでサポートという立ち位置でやっていこうという感じで実施しています。子どもたちが自分たちで何かをするボランティアをすごく楽しんでしてくれています。その子たちと作業しながら話をすると、自分のお父さん・お母さんはここには来ないけど、と話してくれます。もう少し聞いていくと「おばちゃん、おっちゃんが、〇〇くんのお父さんお母さんが来ているとか知らなかったわ」「僕の周りにはこういうのに来る大人がおらへんから」みたいな話をしてくれます。保護者が協力的ではない家庭の子どもにもボランティアに来る人間っているよ、こういう大人たちもいるよっていう姿を見て欲しいのもあって、その家庭の保護者が協力してくれるかどうかは別として、その子たちに協力する大人たちを見て欲しいなって感じたことが最近ありました。 今回、國領先生からのお話を聞いている中で、自分の幼稚園の時のことを思い出していました。砂場で遊んでいた時の先生の大きいお尻、毎朝園庭でダンスをしていたこと、先生がピアノに座った時は歌の時間が始まるので、誰よりも前に行って椅子の下に座っていたこと、その椅子に飾りがついて、その飾りを三つ編みにしていたということを思い出しました。 また、お弁当の自分の好きなおかずを友達に取られて喧嘩をしたこと、そういうことしか覚えていないなと思っていました。 毎日遊んでいた中で順番を守ったり、ピアノの前の人気のある席をたまに譲ったりとか、仲直りの仕方とか、そういうのを幼稚園で教えてもらったなっていうことを思い出していました。 今はすごく多様性というのを言われ、家庭環境も色々あります。なかなか昔のように男の子らしくとか、そういうところでは分けられなくなってきた、もっと柔らかい頭で考えなくてはと思いながら、先生方はそういうところの意識を変えていくのがすごく大変なのではないかなと思っています。先生の教育というのが大事なのではないかなと思っていました。 昔と子どもの姿は変わらないと思うのですが、やはり一番は、健康な強い体を幼稚園の時に作ってもらいたい。座る、書く、聞くという基本的な
------	--

森委員	ところは、力があるとないとでは、この先、小・中学校に進学した時に差があると色々と苦労が増えてしまう。やっぱり素直な心がある子は色んな受け皿を持っているので、良いところを取り入れる力をたくさん持っていると思います。 大人は、ずるいところもあって、自分が得なことをしてしまいます。 道徳性、人の役に立つ、自分が役に立っているということが喜びになるような、何かそういう活躍の場を。家では自分が主役なので、社会に出たときに自分が活躍できる場というのがたくさん広がっていけるようなそういう社会を私はこれからも望みます。 我が家は高齢者2人で生活しています。娘は夜には帰ってきて、朝出て行きます。ゆっくり喋る機会があったとしても、「お父さん何言ってるの」「年を考えなさい」「もっと自分のことも考えなさい」というようなことばかり言われます。最近自分がいろんなことに対して批判的なわけではないのですが、イライラしている部分があるなと感じています。 実際、学校でこういうことをやって欲しいな、保育園・幼稚園・中学校こういうこといいなと思うけれども、自分ができない、あるいはそれ以上のことが考えられないというそのもどかしさがあって、やっぱりイライラしている部分があるのかなと思います。 幼稚園のことで、私も覚えていることはいくつかありますが、今から考えると、70年近く前の話になります。砂場で道路を作って、木を使って道路を車で走らせるという遊びをしていました。みんな楽しくて笑ったな、今から考えると5歳児という時です。 階段で寝転んでいたとか、当時、給食はなかったので、お弁当を持って行って、冬場に温めると保育園中に漬物の匂いがした、でもあれおいしかったなっていう記憶しかありません。 つい先日親の出張の関係で孫2人がこちらに来ました。学校はどうするのか聞くと、タブレットでいろんな課題が送られてくるから、それをさせてくれということでした。 離れているからこそ、成長したことが見えてくる、本当に2人が小さいときはほぼ年子（としご）的に2歳しか変わらないもので喧嘩するばかりでしたが、最近は違って、少し落ち着いてきて、私はこれやるからと一人で遊んだり、一緒にやるときは一緒に遊んだり、創作遊びを自分で考えてしています。 やっぱりそういう遊びの中で、一つ突っ込むとそれ以上のことでポンポンと話が返ってくる。今までの経験で自分がやってきましたが、園長先生の話の聞いていると、幼稚園・保育園というのはやっぱり余計大変なのだなって改めて考えられる。
-----	---

副町長	小学校・中学校に行くとテストがある。教科書がある。だからそれに対して、そこから何を考えさせるのか、どういうふうにさせるのかっていう波及させていこうということが出来るけれども、幼稚園・保育園では、本当に具体的にどういう形で指導していくかというのは非常に難しいなということを改めて考えています。 指導要領の中にもずっと幼児期の学びに向かう力の土台ってということが書かれていますが、これは当たり前でしなければならない、当り前の形にしなければならないというのがずっと言われていることだと思います。でもいろんなことを目標通りに進めるっていうことはどうなのでしょう。本当にそれだけでいいのかなというのと、本当にできるのかなっていう不安、疑問が残っています。 考え思考と心の思いを、両面を構築させることは非常に難しいなっていうことを、実際我々がやっているときでも思っていました。 実際のところ計画立てて実施して反省してそれを全部振り返り求める、次に繋ぐっていうのは、ものすごく時間のいることだなというふうに考えます。だからその時間をどう確保するのか、今働き方改革をいろいろ言われているので、言われた時からずっと心配していました。 園と教師の思いの理解が一つになって、そして保護者にどういう形で伝わるか、そして子どもを見る目と自分の心の持ち方をどのように子ども、あるいは園・保護者・保育士中で共有するか、三位一体とか言われますが、今の子の力をどのように醸成させていくか、ものすごく難しい問題です。 園児と保護者と教師の3人プラス地域それから行政という、もっともとうまく密に連携されないとこれは難しいなということを思っています。 園児数、児童数、生徒数はこれから減少していきます。そうすると教員は引き上げになります。そうするとしなければならないことが今まで以上に増えているのに、それを動かす人が減ってくる。この辺をどのように質を維持していくか、あるいは盛り上げていくにはどうするか、ということをやはり今後物理的な部分で考えていく必要があるのだろうなというようなことを日々1人で考えております。 私自身の体験で少しお話させていただきます。私自身が幼児教育に関わったのは、思い返して2回あったのかなと思います。 1回は自分が幼児の頃、2回目は自分の子どもが保育園だった頃です。その時に幼児教育に触れた経験をさせてもらったかなと。私も子どもも保育園に通っていました。保育園の先生方が毎日色んなことやってくれていたなとしっかり覚えております。その記憶が子どもが保育園でお世話にな
-----	---

議長（有村町長）	ったときもやはり同じように色々なことを先生方がやってくれていました。すごく当たり前というか簡単に先生たちが色々やっておられたのが、今先ほど説明を受けてやはりこういう裏というか、先生方の努力があったのだなというのがよくわかりました。ありがたい中で育ててもらったなというのを実感しております。 子どもを育てるとするのは、先生方の力が、非常に大きいというふうに自分の中で思っていたのですが、自分の子どもが保育園、小学校、中学校、高校と預かってもらって行かしてもらって思ったのは、自分のときよりも子どもたちがどんどん育っていく過程の中でやはり家の中で育てるとするのは非常に大事なだろうなというふうに思っておりました。 私の上の子の時だったかに、モンスターペアレントという言葉が出始めた頃だったかなと思います。なんでも学校に責任を持っていくっていうような感じがあったのかなと思います。保育園のときは結構協力的に園の行事に親が参加して楽しくしているのですが、小学校になってくると、あまり参加してこなくなりました。授業参観に行くと親が廊下でずっと喋っています。親がしていることなので先生方もなかなか注意ができない。先生たちも大変だろうなと思っていました。 それと保育園幼稚園のときは、イベント時にこっち向いてとか言って写真撮ったりビデオを撮ったりするのを先生にも結構協力してもらって、子どもたちの前の方で声をかけにいっても許される、それを小学校になっても親は同じように持ち込んでいました。小学校中学校になってくるとそこは違うなっていうところを親の方の教育っていうのも何か課題になってくるのではないかと思います。 あとは、先ほど木津委員がおっしゃったと思うのですが、ボランティア活動をしている大人を見て、自分の親じゃない大人がそういう活動しているところを見て、そういう世界があるというのを子どもたちが学ぶということがあってというのが、子どもたちってどんな年齢でも結構大人を見ていると思います。子どもたちを直接教育するっていうこともとても大事だと思いますが、その機会をとらまえてできれば大人の方の教育も何かできるといいのではないかとこの自分の体験から思っております。 「健康で健やかに」環境整備である施設面ハード面もそうですが、先生方がしっかり子どもたちに向き合っていていただけるような環境を整えること、そういったことも守っていききたいというのが私の思いでございます。 何人かの委員がおっしゃってくださいましたが、基本的には、その子どもを持つ親であったり保護者であったりがいっぱい背中で見せていくということであろうと思っております。もちろん家庭のご事情によってそれ
----------	--

	がなかなか適わないという場合でもその周りにいる大人の誰かしらが背中を見せられる、またその近隣のボランティアの方になるのかが、見守ってあげられる、夢を語ってあげられる、色々な可能性が世の中にあるということを見せていってあげることが大変大事かなと思っていました。 幼稚園の事柄を見せていただいて、やはりこうやって健やかに育てくれた方々が素晴らしい素材であったとして社会に出た時にそれがどのようなことになっていくのか、違う次元の設計なり、環境整備なり、本来的に目指すべき形というのはこれだろうというのは見えにくいものであるが故、努力で頑張っていきましょう、うまくやっていきましょうということだけでは駄目なんじゃないかと私は思っています。 先週記事に出ていて面白いなと思うものがありました。世界で活躍していらっしゃるユニクロの柳井社長のお話がありました。広島 of 紳士服店をお父様から引き継がれて、このままじゃまずいということでナイキとかアディダスとかのTシャツを扱うようになって「僕は金脈を見つけたな」とされていました。その後、香港にいらっしゃったら1500円でTシャツが売っている、なぜ1500円でTシャツが売れるのだろうと考え、自分で最初から作るのだということに気付き、自分が金脈だと思ったものを2年かなぐり捨てて、自分がメーカーになってそれを直接お客さんに届けるっていう商売をやってみたいということで、全力でやられた。その後、広島の方から西日本、東京にも出て行くと。ある程度の位置まで来たけれどもその先にやはり自分は世界に出て行きたいと思った。色々ステージはあったのですけれども、なかなか中国に出してもうまくいかなかった。ヨーロッパに出してもアメリカに出してもうまくいかなかったということがあったと。振り返られておっしゃっていたのが「僕は努力はすごくした。けれども成長はあまりなかった。」なぜか？明確に世界一になる、と目標を定めていなかったからだ。 みんな努力するのはそりゃそうだろうと、明確なゴールの設定ができるように大人たち、また子どもたちにも気付かせる、日々の踏ん張りが必要だぞというところを打ち込んでいってあげると良いのかと思いながらその話を見ていました。 iPhoneが初めに世にデビューした時、スティーブジョブスがプレゼンテーションで言っていたのはインターネットができる、電話もできる、写真も撮れる、通信もできるということが画期的だったと思うのですが、最後に言ったのはあの当時、アイスホッケーが非常に盛んで、ホッケーの王様と呼ばれていたウエイン・グレッツキーのお話をされました。その人が言っていた格言「I skate to where the puck is going to be, not where it has been ~パックがあるところに僕が滑って行って打つのではなく、パックが行くであろうところに僕が行ってパックを打つんだ。~」を取り上
--	--

教育長	げられました。やはり私達も今そこにある、そこを打ちに行こうって言うているのではなく、俺たちが目指すのはここだよっていうことでやっていく、そういう大人たちを見て、子どもたちも俺たちの次の展開はこれだというふうに考えてくれるのではないのかなというふうに思います。 大人の責任ということは大変大きいので、そこをみんなが捉えられるとすごく嬉しいな、なんてことを思っております 最後は教育長ということでございますのでありがとうございます。 國領園長、本当にありがとうございました。いつも幼稚園に行くといつも思うのですが、中学校の子どもたちも見ている中で一番年長児がしっかりしているなと思います。 それは指導するという立場から見ても子どもたちに指導しやすい場というのもあるのですけども、やはり、まず自己決定をしている。それから自己選択して、そして自力解決をしているという姿がやはりその中にあると思います。 小学校に行くにつれてやはり一斉型になってしまって、そういう機会を減らしていることに繋がっていると思います。やはり今この時を自分がどう生きるのか、あるいは同じような問題が提示されても、自分がその問題をどう考えるのか、どういう答えを出すのか、答えのない答えも含めてですけども、そういう経験がまだまだ少ないのではないかと思います。 同じ答えを求めている授業もまだまだあるように思います。 自分の人生っていうのは自分だけにしか描けないわけで、そう思うと何でもかんでも誰かと一緒に同じことをしているってあり得ないことだと思うので、自立をもっと子どもたちができるように、幼児の時に積み上げたものをもっとスムーズに小・中学校へ繋げていかないといけないのではないかなというふうなことを改めて思ったところです。 先日、オンラインの研修を見ていましたら、やはり今の子どもたち、愛着障がいて言われますけども、一番は愛着が感じられない、何かあって相談したいときに、小さい子どもも ICT に頼ってしまう。親からすると、子どもが相談してくれるとか、困り事を色々自分にぶつけてくれるという機会がもうなくなってしまう。それがすごくマイナスになっているという話も聞いたことがあります。やはり自信がなくても自分の子どもに対して「いやこれはこういうルールなのだ」と、「これは守らなければならないのだよ」とそういう向き合い方も含めて、それが必要なのではないかと改めて思ったところです。 親ガチャという言葉、私はあまり好きではありませんが、確かに子どもたちが置かれている家庭の状況によっては、かなりハンデの部分からスタートしている子どもさんがいるのは事実だろうと思います。
-----	---

	ただ、親のせいにしたところで、自分の人生が良くなるわけではありません。親を恨んだところで自分の人生がばら色になるわけではない。 自分が夢や志を持ってそこに向かっていく。そのことで切り開いていく。もちろんその前には小さい時から貴方のこういうところにいいなとか、そういう賞賛であるとか、可能性を指摘してあげるとか、そういうことで子どもたちの自己運用感、自己高揚感とか、そういうものが育ってくるのではないかなと思います。 それが生きている原動力になっていって、別にそれは誰かに合わせなくても主体的に生きていける。そういうことに繋がるかなというふうに思っています。 ただ、そういう部分は公がしっかり担う、公の幼稚園あるいは保育園あるいは小・中学校でないと担えない部分もあるかと思いますので、保護者の方も色々な悩みがある、それをどう伴走しながら支えていくか、そのことがまた園や学校に向き合ってください、あるいは地域社会もきちっと先ほどのボランティアの話ではないですが、頑張っている大人の姿として子どもが尊敬できる姿となっていただけるのかなということで今後の行政の中はもちろんですが、ボランティアの皆さんと色々な方々と連携して子どもたちが夢を持てる、志を持てる、そしてそのゴールをしっかり意識付けできる、自分なりに歩んでいける、そんな教育環境を作っていきたいなというふうに思っております。 今日も本当に貴重なご意見ありがとうございました。大変参考になりました。ありがとうございました。
議長（有村町長）	ありがとうございました。以上で本日の協議事項はすべて終了しました。
教育次長	ありがとうございました。以上で、令和6年度第1回の愛荘町総合教育会議を終了します。次回は11月頃に開催をさせていただければというふうに思っておりますので、またよろしく願いをいたします。 本日はありがとうございました。 午後3時25分 閉会